

## 海難事故事例

東北地方で平成27年1月に発生したミニボートによる事故を紹介します。

### 荒天下、ミニボートが操船不能となり、救助要請あり！

#### 【事故概要】

男性2名が乗船したミニボート（長さ約3m、インフレータータイプ）は、午前7時半頃出港し、沖合500～1,000メートルの海上にて釣りをしていましたが、正午頃から風が強くなり、港へ戻ろうとしたものの風の影響により進むことができなくなり、危険を感じたため、携帯電話から118番通報で救助を求めました。

ちょうど、付近を通りかかった船舶がミニボートに気づき、無事救助されました。当日の天候は、午前中は風速が2m/s以下でしたが、12時以降、風速7m/s以上となり、付近マリナーでは瞬間風速21m/sを観測しました。ミニボート乗船の2名は、天候が悪化する旨の天気予報を把握していましたが、避難時期の判断を誤ってしまいました。

#### 【ミニボートの事故防止のために】

出港前に**最新の気象・海象情報**を入手

強風や高波が予想される場合は、

**出港を取り止める又は早めに帰港する決断が必要**

**天候が急変した場合でもすぐに帰港できるよう**

**必要以上に沖合いにでない**

#### 【インフレータータイプ（チューブに空気を入れて膨らませる方式）の特徴】

小さな力で動かせる反面、**風力で流されやすい**

船体のエアチューブの浮力を利用しているため、突起物等で

**損傷すると浮力を失う**



今の季節は、水温も低下し

「海中転落 = 死亡事故」

の可能性が非常に高くなります。



ミニボートとは、「長さ3m未満かつ機関出力1.5kW（2馬力）未満」

であり、「船舶検査や小型船舶操縦免許が不要」な船舶を言います。

# 釣り中の事故事例（11月中）

## 岩場で釣り中、大波を受け、海中転落！

男性1名は、岩場で釣りを開始しましたが、その約5分後、突如大きな波が岩場を洗い、そのまま波にさらわれ、海中に転落しました。

「助けてくれ！」との叫び声を聞いた付近の釣り人が携帯電話で118番通報して救助を求め、海中転落してから約30分後に無事救助されました。

男性は、救命胴衣を着用していましたが、「低体温症」と「肺炎」の疑いで入院することになりました。

## 【岩場での事故防止のために】

高波が寄せる場所での釣りは避けることが大切です。また、波の高さは一定ではなく、時々、発生する大波（一発波）にも注意する必要があります。

外洋に面した海岸では、一見、穏やかそうな海でも、波の高さは一定ではありません。

同じような波の状態が続くとき、**100波に1波は有義波高の1.5倍、1,000波に1波は2倍近い高波が出現することがあります。波が打ちあがって濡れている場所には近づかないなど十分な注意が必要です。**



「有義波高」：ある点を通過する波を観測したとき、波高を高い順に並べ直して全体の1/3までの波の高さを平均した値。

目視で観測される波高は、有義波高とほぼ等しいと言われてる。

岩場で波を受けた場合、

海中へ転落したり、岩に叩きつけられ、大怪我をする恐れがあり、大変危険です！

**波の影響を受けない場所で釣りを楽しみましょう！**

**自分の身を守るためには、自らの心がけが第一歩です！**



マリレ情報よるず屋

～バックナンバーはこちら～

海の安全情報スマホ版サイト

（沿岸域情報提供システム）



マリレ情報よるず屋に関するご質問等は、「022-365-9609（直通）」までご連絡ください。担当者がお答えします。パソコンの方：「マリレ情報よるず屋」「海の安全情報」で検索！